

論 評 - 7

論評者：平賀 真紀

雑居ビルの実態と防災対策（小林 忍 著）

『予防時報』117号（1979年4月号）に掲載

本論稿は1979年に掲載されたものであるが、雑居ビルの防災上の特殊性とその防災対策についての問題点を、既往の火災例を紹介しながら詳細に検討するとともに、今後の課題としていくつかの提言をしている。予防時報では本論稿掲載後も雑居ビルの防火対策についての論稿が多数掲載されており、その危険性と対策の必要性についての関心の高さが伺われる。

2001年9月に発生した新宿歌舞伎町の雑居ビルの火災により、死者44名および負傷者3名という甚大な被害が発生し、その防火対策の不備が大きく報道された。この火災を機に2002年には消防法の改正がなされ、同改正法により、立入検査の充実や法令違反に対する違反処理の徹底などが図られており、雑居ビルの防火対策を取り巻く環境は本論稿執筆当時からは変容しているであろう。し

かしながら、本論稿において雑居ビルの防災上の問題点として挙げられている防火管理者の未選任については、2004年中の東京消防庁管内の違反指摘件数においても、防火管理者未選任・避難訓練未実施等の防火管理に関するものが最も多いとされており（「雑居ビルの防火安全に対する取組みについて」松野祐司著 予防時報224号）雑居ビルの防火対策についてはいまだに課題が多いことが伺える。

筆者は本論稿のむすびにおいて、いわゆる行政主導型の管理形態がもたらす、企業や関係者サイドの自主性と責任意識の低下という弊害を指摘し、企業的責任としての自主管理の徹底を図っていく体制を確立することの緊急性を指摘している。前述の歌舞伎町のビル火災においても、ビル管理者による自主管理のずさんさが被害を拡大させたことは明らかであり、今後、行政とビル管理者の連携により、さらなる防火体制の促進が実現されることが期待される。

論 評 - 8

論評者：生馬 尚 新一

高速道路における安全走行および自動車運転技術（鹿島 威二 著）

『予防時報』141号（1985年4月号）に掲載

速度の高低にかかわらず、運転中に危機に直面する可能性は誰にでもある。その際、危機を回避できるか否かは、最終的にハンドルとブレーキ操作に頼る以外にない自動車の運転においては、自分の運転能力を把握しているかいないかで、大きく異なってしまう。

本稿で筆者は、安全運転を「ドライバー個々が運転能力の限界を知る」ことから始めるとし、そのためには体験が重要であると述べている。

自分の運転能力が、自分が思っていたよりもいかに未熟かを知ることは、己の過信を抑制し、謙虚な態度で他からの教えを聞くことにもなり、結果として無茶をしない安全運転に繋る。

クルマ自体の性能が高くなっている昨今では、その性能によって上手に運転できているところが大きいにも関わらず、自分の運転技術が高いと錯覚しているドライバーたちが数多くいると予想される。そのドライバーたちに「自分をわからせる」ことは、「安全運転をさせる」ためには非常に有効で、その意味で、本稿は今一度読み返したい一編である。